

休日の部活動の地域展開を進めます。

～子どもたちに持続可能で豊かなスポーツ・文化芸術活動を保障するための環境づくり～

《目標》①「生徒一人一人の希望に応える充実した活動の保障」

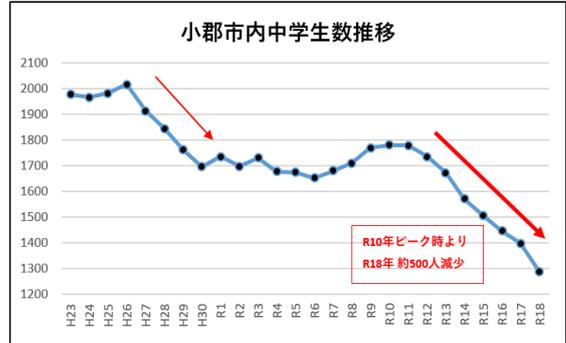
②「指導者の希望を生かした指導体制づくり」

国や県では、休日の部活動を段階的に地域へ展開する方向性を示しており、小郡市においても、子どもたち一人一人のニーズに応じてスポーツ・文化芸術活動に持続的・継続的に親しめる環境を整えるため、これからの部活動の在り方を検討しています。

小郡市内の中学生の減少

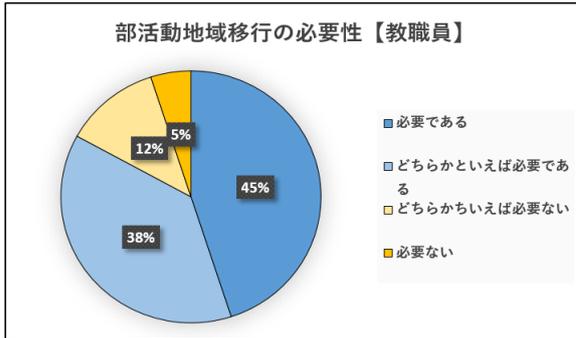
平成26年度から平成30年度にかけて大幅に減少した後は、しばらく横ばい状況でした。しかし、令和10年度をピークに再び減少傾向になることが予測されます。

現在、すでに人数が足りず単独校では存続できない部活動があります。今後の生徒数減少にともない、そのような部活動が更に増えていくと思われます。

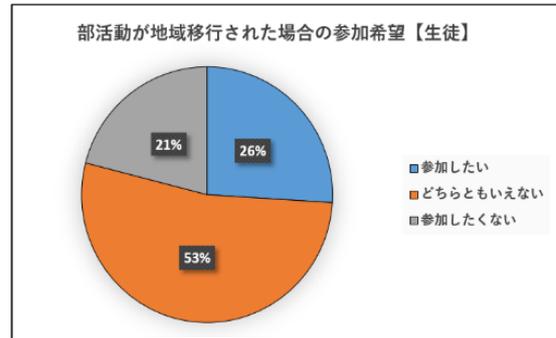


【実施期間 令和5年9月13日～29日】 回答率：教職員 88.2%、生徒 77.4%、保護者 60.8%

【部活動地域移行の必要性】



【部活動が地域移行された場合の参加希望】

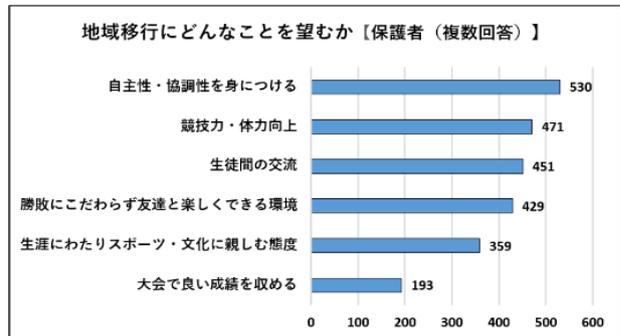
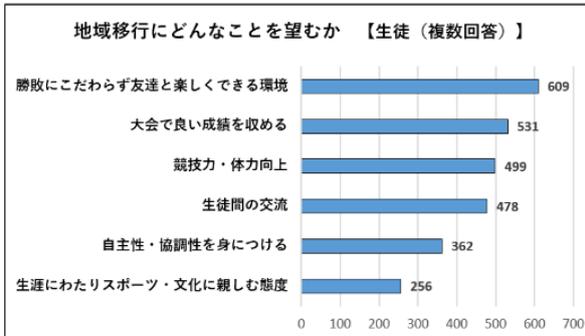


8割以上が、地域移行は必要だと感じている。

生徒は、半数以上が「どちらともいえない」。

多くの教職員は、生徒数の減少による部活存続の危機感や授業づくりに時間を取りたい等の教職員個々の状況に対応するために地域移行は必要だと考えている。今後、部活動の教育的意義を確認し、持続可能な体制をつくる必要がある。

生徒は、大きく3つの層に分かれている。まだ地域移行に具体的なイメージがもてず、戸惑いがあると考えられる。今後、地域移行への理解が深まれば参加したいという生徒も増えると思われる。



生徒は、「勝敗にこだわらず友達と楽しく活動したい」（エンジョイ志向）という生徒と「大会で良い成績を収めたい」（競技志向）という生徒が混在している。保護者は、「自主性・協調性を身につける」「競技力・体力向上」「生徒間の交流」「勝敗にこだわらず友達と楽しくできる環境」等を願っている。

「新しい合同部活動（休日拠点校方式）」から「地域クラブ」へ

国・県の動向や小都市の現状と課題を整理し、持続可能で豊かなスポーツ・文化芸術環境を再構築するために、以下のような内容に取り組みます。

○令和7年度～8年度…「新しい合同部活動（休日拠点校方式）」を推進します。

※（休日拠点校方式）とは、部活動の種類ごとに核となる学校を活動場所として定める仕組みのことです。（1～3カ所の学校）

○令和9年度…すべての休日の部活動を「地域クラブ活動」へ移行します。

取組内容	令和7年度		令和8年度		令和9年度	
	新しい合同部活動（休日拠点校方式）					地域クラブ
	8月～12月	1月～3月	4月～7月	8月～3月	4月～	
	計画期間	調整期間	試行期間	実施期間	課題修正期間	
	①今後の見通し説明 ※学校部活動保護者会 ・取組内容 ・ロードマップ	③活動体制調整	④活動体制確認 ※PTA総会部活動保護者会ミーティング(生徒) ・目的、内容 ・見通し等 ↓ ⑤随時活動開始	⑥休日拠点校方式完全実施 ・課題の整理	⑦休日地域クラブ移行完了 →実施 ・課題の修正	
	調整	調整				
		1～2部活動	3～5部活動	全ての部活動		

生徒・指導者の希望に応えるための「新しい合同部活動（休日拠点校方式）」と「地域クラブ」

Q 「新しい合同部活動（休日拠点校方式）」では…

1. 指導は、指導を希望する教職員や専門性が高い外部の指導者が中心となります。
2. 指導が困難な教職員への配慮や指導体制に輪番制等を取り入れることにより、指導者の負担軽減を図ります。
3. 生徒は、所属する学校に希望する部活動がない場合も参加できます。
4. 中体連大会には、これまで通り合同チーム、学校単独チームで参加できます。
5. 練習試合・協会大会へは、これまで通り学校ごとで参加できます。

「地域クラブ」では…

平日

学校部活動

入部する

入部しない

休日

- A 学校部活動と同じ種目の「地域クラブ」で活動
- B 学校部活動と違う種目の「地域クラブ」で活動
- C 学校の部活動とは無関係に「地域クラブ」で活動
- D スポーツ少年団等のクラブや教室で活動
- E 何も活動しない

